

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072200373		
法人名	医療法人かつき会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	福岡県甘木市下浦715番地 (電話) 0946-22-6191		
自己評価作成日	平成22年9月13日	評価結果確定日	平成22年12月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同一法人内に病院が併設しており、協力病院でもある。又、病院の3階部分にグループホームがある。医学的面においては主治医、看護師、リハビリ、病棟等との連携が図りやすく、御家族等から「安心して過ごせてもらえる」との言葉を頂いている。同時にスタッフも「医療との連携が取れ易く、安心して介護を行える」と言う精神的負担軽減に繋がっている。病院も地域に根付いた病院であり、受診やリハビリ時、偶然、知人の方と会い、話しが弾む場面もしばしば見受けられる。認知症であっても、ゆったりとその人らしく毎日を送っていただき、入居者・御家族・スタッフで色々な事を共有し、入居者の生活支援が行えるように、今後も心掛けていきたい。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成22年10月14日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

母体の病院・グループホーム・訪問リハビリテーション等、一つの共同体として機能するように建設され、連携が図られている。特に母体病院との密接な連携で利用者の安全と安心を保障し、家族への安心につなげている。各居室及びリビングからは街並みや田園風景が拡がり、利用者は日々の暮らしの中で季節の変化を感じられ、思いおもいに寛がれている。質の高いケアを実施するため、事業所内だけでなく法人全体及び外部研修を受ける機会を設け、職員教育に力を入れている。今後、地域の高齢者の生活を支える拠点として、発展が期待される事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆうゆう理念をホーム内に掲示している 地域との関わりを出来る限り続けられる様、ご家族へも協力依頼を行い、希望の限り床屋へお連れしたり、地域行事への参加も心掛けています。理念を理解し目標を出し、実践に取り組んでいる。	「地域の中でゆったりと悠々自適に」と、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念がある。ミーティングや運営推進会議等で理念について話し合い、言葉かけや態度、記録等、具体的な理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等の外出時に近隣の方と挨拶を交わしたり、受診やリハビリで病院へ行った際に、入居者自身の知人・友人・御近所さんと顔を合わせ話をしたり、面会があったりしている。	町会・自治会に加入している。文化祭等の地域行事に参加し、事業所主催の夏祭りに地域住民の参加がある。また、散歩時に地域の人と挨拶を交わす等、日常的に地域との交流に努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新入居時や御家族の面会時などに、話をしたりしている。法人主催の敬老会・文化祭や運営推進会議時に、話を行うようにしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者へ分かり易い言葉を用い、各議題毎に質問・要望等の確認を行い、内容を確認し再確認を行い、進めている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。事業所から利用者やサービスの実際、今後の活動計画等を報告し、委員からの意見・要望・質問等をもらっている。その中で、地域ネットワークづくりについて意見があり、勉強会等を開催し、その実現に取り組む等、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話又は市窓口まで訪問し、相談や問い合わせを行っている。運営推進会議への参加も依頼し、参加してもらっている。	管理者は、日頃から行政窓口へ出向き、また電話で連携を図り、事業所の報告・連絡・相談等を行い、協力関係を築き、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束マニュアルに添い、同意書をとって、2名の身体拘束を行っている。毎月ミーティングを行い、御家族とも話をしながら、少しずつでも拘束時間を短縮できるようにスタッフ・御家族共に努めている。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、内部・外部研修を行っている。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書がある。居室及び玄関は施錠していない。やむを得ず身体拘束を行っているが、早期解決できるよう、職員及び家族等は連携し、対応に努めている。	職員は、利用者の現状をアセスメントし、医療関係者や家族等とも相談しながら全職員で話し合い、施設全体で身体拘束の早期解決に向けて取り組んでほしい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフによる虐待行為については、スタッフ間で相互監視を行い、入居者家族による虐待行為については必要に応じて関係機関（主治医・ソーシャルワーカー・スタッフ等）と連携し、情報の提供と行政専門医への相談を促す。又、セミナーや勉強会に参加し、学ぶ機会を設ける。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料をファイルし閲覧できる様にしたり、運営推進会議で勉強会を行っている。社会資源の利用が必要で詳しいアドバイスが必要な場合は、ソーシャルワーカーへ協力依頼し、解決にむけ取り組んでいる。	職員は、制度について内部研修で学ぶ機会がある。パンフレット・研修記録がある。利用者・家族等へは、制度について利用開始時に説明している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類の読みあげ説明を行い、随時、疑問点や分からない部分の確認を行い、理解や納得を図っている。後日でも、疑問等があれば、その都度説明を行うように心掛け、声掛けを行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情担当者を決め、掲示を行い、面会時も確認を行い、意見や苦情があった際はスタッフ間で話し合い、必要に応じ、上司へ報告し、改善を図る。入居者御本人に対しては、普段のコミュニケーション等の中からや運営推進会議に参加して頂いた際に確認を行い、再度、会議等で話し合い、検討している。	利用者・家族等の意見は、日々のケアの中や家族来訪時等に積極的に声かけして聴取するよう努めている。利用者の意見等で外出の機会を増やしたり、設備を見直す等、運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングの時や日常の業務中等に、スタッフからの意見を聞いたりし、話し合いを行う。	管理者は、ミーティング時等に職員の意見や要望を聴取する機会を積極的に設け、外部評価の自己評価を全職員で取り組みサービスを見直す等、意見を反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングや業務のゆっくりとした時間等を活用し、業務改善等の話をしたりし、普段より気兼ねなく色々な話が出来るようにし、働きやすい環境・雰囲気作りを心掛けている。又スタッフの得意分野を活かし、能力が発揮できる環境を意識し、さらなる向上心を持ち、働いていける様に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	グループホーム職員と適した人材であり、意欲的に取り組もうという姿勢を採用対象とし、個々の能力を行かせるように努めている。又、スタッフミーティング時等に、一人ひとりが発言できる機会をもっている。	職員の募集・採用にあたっては、意欲的な姿勢を尊重し、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務できるよう、希望する研修を受講できるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎週月曜日の朝礼時に、法人代表より短時間の講和がある。又、ホーム内に人権に関する資料を貼ったり、研修会に参加し、啓発活動に取り組んでいる。	定期的に入権に関する内部研修があり、職員は外部研修もあわせて研修を受ける機会がある。報告書等がある。法人代表者は、人権に関する資料を掲示板に貼る等、啓発活動に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内での研修会、事業所内での勉強会を行っている。法人外の外部研修へも参加の呼びかけを行い、参加時には研修報告書を記入している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会のスタッフセミナーやグループホーム部会に参加している。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとりコミュニケーションを取り、傾聴を心掛けている。日常会話においても時間を見つけ、話を行っている。難聴の入居者の方にも、ゆっくりと話す時間をもつようになっている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時には、困っている事・不安な事などを聞き、アセスメントを行い、御家族と一緒に対応策を考えている。又、入居後は、面会時に気軽に話せるような雰囲気作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容により、職員間で改善策を講じる。又、必要に応じ、他のサービスの情報提供や紹介などを行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人のできる事は、自分で行って頂いている。出来ない部分は無理をされないように声掛けを行い、支援している。又、入居者の生活歴を把握し、特技や趣味等を活かせるように心掛けている。常に入居者の方から学び、その事を活かしつつ、支えあえる関係を構築できるように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と話し合える機会を面会時にはもち、意見交換、希望等を行いながら、共に支えていく関係を築けるように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族からの情報提供をもらい、外出支援や面会を依頼したりして、関係の継続を支援している。又、ドライブや散歩時に馴染みの場所を通ったりして、知り合いの方と会う機会を持つように努めている。	職員は、家族等から情報を得て、利用者の馴染みの人や場所を把握している。利用者の馴染みの場所へ出かけたり、知人が事業所へ訪ねてくる等、利用者が地域や知人等との関係を継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや食事時間等には、必ず、ホールへ出て来てもらい、顔を合わせる時間を作っている。入居者同士の関係を配慮したりして、席等を誘導している。又、入居者同士が過ごしやすいように配慮する。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族からの相談等があった際は、関係機関のもとに連携をとり、支援を行えるように心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	御本人に尋ねたりし、本人の意向を把握出来るように努めているが、困難な事もあり、御家族へ確認したりし、少しでも近づけるように検討している。困難な場合でも、その方の表情や動き、言葉から把握しようと努めている。	職員は、利用者と日々の関わりの中で利用者に声をかけ、思いや希望、意向等の把握に努めている。言葉・表情・行動等で真意を確認し、意思疎通が困難な利用者には、家族や関係者等から情報を得るようにして、本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人より話を聞くが、困難な事が多く、御家族からの情報提供が殆どである。意思疎通が困難な方もおり、把握が出来ない事もある。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間での情報交換・共有をし、又、アセスメント、介護記録等の記録物を活用し、現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、御本人主体で考えられるよう御本人・御家族主治医等の意見を収集し、計画作成を行っている。	介護計画は本人、家族、職員、医師等の意見を反映し、個別具体的に作成している。計画の見直しは3～6ヶ月毎に行い、状況の変化により随時見直しをしている。介護計画作成後は家族等へ説明し、署名・押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしを観察し、気付いた事などを介護記録に残し、スタッフ間で情報を共有している。それを基に、介護計画の見直しに活かせる様に心掛けている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人個人のペースに合わせて、起床・排泄・入浴・食事等の支援を行い、個々の生活リズムに合わせる様に心掛けている。又、御家族よりの要望や情報、関係機関よりの情報も参考にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との交流の場、意見交換等の場を含め2ヶ月に1度運営推進会議を行い、その際に入居者の状況等を伝えている。又、地域の文化祭に出品・参加をしたり、行事のボランティア依頼をお願いしたりする。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前には主治医より情報提供を頂き、可能であれば、御家族送迎にてかかりつけ医への受診や、希望される医療が受けられる様に説明を行っている。又、専門機関への受診が必要な場合等は、主治医より御家族へ説明をして頂いている。	本人及び家族等の希望を大切に、受診時の通院介助や情報伝達の方法について話し合い、合意している。事業所の協力医での24時間体制の受診を支援している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内に病院が併設しており、日常的に挨拶や顔を合わせる事があり、看護職員も入居者の事を把握しているため、安心に繋がっている。又、看護職員より入居者の情報提供がある事もある。異変があれば、些細な事でも連絡をしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	同法人内に病院が併設しており、主治医・看護師・ソーシャルワーカー等からの病状について、情報の連携も取り易い。病棟に面会に行ったり、早期退院に向けた意向を確認し、連携を心掛けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化・終末期のあり方について説明を行い、意向を尋ねている。必要となった際は、再度確認・同意の上で主治医・看護師等との連絡を密にとり、関係者間での話し合い・方針の共有できる様に心掛けている。同法人内に病院が併設しており、環境的にも行いやすいと思われる。今後も希望があれば、受け入れていく。	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針があり、利用者や家族等へ説明し、同意を得ている。利用者本人の状態を見ながら、家族、職員、主治医で話し合い、方針を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、対応手順に添って、急変や事故発生時は対応できるようにしている。グループホーム内で、定期的な訓練は行っていない。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人合同、グループホームのみで防火訓練を実施し、スタッフ全員が訓練に参加できるように心掛けている。又、運営推進会議時にも、ご家族、区長・民生委員児童委員に災害時の協力を依頼している。	マニュアルを作成し、年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。また、運営推進会議を通じて地域住民へ呼びかけ、参加協力を依頼している。非常用備品の準備は特にならない。	災害に備え、非常用食料・飲料水・備品を準備してほしい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの居室は、プライベートな空間である事を忘れないようにし、プライバシーの確保に心掛けている。入室する際は、必ず声掛けを行い、入室している。その人に合わせた言葉かけや対応を行うようにしている。	管理者及び職員は、ミーティングや内部研修時等に利用者一人ひとりへの言葉かけや対応について話し合い、プライバシーを損ねない支援に努めている。職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、本人の気持ちを大切にし、その人に適したさり気ないケアを心がけ、対応している。研修記録・資料等がある。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や外出等の希望があれば、計画・調整をし、実施している。又、買い物は代行する事が多い。御本人の希望や好み、御家族の希望等を伺い、御家族と共に相談をし、支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れは一応あるが、その時その時で、臨機応変に対応している。業務の優先順位を考え、後で出来る事は後回しにし、入居者のペース・希望に出来る限り合わせるように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は、希望に応じ、対応している。自分で更衣出来る方には、出来るだけ御自分で衣類を選び、更衣を行って頂くように心がけ、又、自分で選んでいる服を、褒めたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食を取り入れたり、誕生日には個々の希望に合わせたメニューを提供している。食事形態も一口大・刻み等、その人に合わせた食事を提供している。また、配膳・下膳等の出来る事のお手伝いを行って頂いている。	利用者と職員は、一緒に食事の準備や片付けをしている。献立は母体法人の栄養士が作成し、法人で準備した食事を利用者一人ひとりに合わせて刻み食にする等し、職員は持参した弁当を食べている。また、週1回、事業所で調理する機会があり、その際は利用者と職員は、同じテーブルで同じ食事を食べている。	毎日一食でも事業所内で利用者と職員が食事の準備をし、同じものを食べてほしい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握を行い、治療食が必要な場合等は、主治医・看護師と相談し、栄養士のアドバイスを受け、食事の提供を行っている。お菓子等の嗜好品については、本人が管理できない場合は預かり、希望時に渡している。水分については随時提供し、水分量が少ないと思われる際は、補給回数を増やしたりし、対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。又、必要に応じ、歯科往診を依頼し口腔状態の把握、口腔ケアを実施している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを使用し、個々の排泄パターンを把握し、一人一人にあったトイレ誘導を行っている。トイレの訴えがあった際は、その都度誘導を行い、心地よく過ごして頂けるように支援している。状態に応じ、綿パンツ・リハビリパンツ・尿とりパットを併用している。	排泄チェック表を作成し、職員は利用者の排泄パターンを把握している。職員は利用者のサインに気づき、さり気ないトイレ誘導を行う等、排泄の自立支援に努めている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト等の乳製品の摂取やバナナ等の果物を取り入れたり、トイレ誘導時に腹部マッサージを行ったりして、排便を促している。又、主治医、看護師と相談し、必要に応じ、便秘薬の処方をしてもらっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	希望に合わせ、入浴出来るように対応している。入浴日が水曜・土曜となっているが、希望に合わせて、個浴槽にて対応している。又、体調や希望入浴時間に合わせ、入浴の支援を行っている。	大まかな入浴日の設定はあるが、利用者の希望に合わせ、いつでも入浴できるよう支援している。入浴拒否の利用者へは、声かけやタイミングを計る等し、楽しく入浴できるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	掃除のお手伝いをして頂いたり、体操やレクリエーションをしたりと、適度に体を動かして頂いている。午前・午後に、水分補給などを設けている。午後よりゆっくりとした時間を設けており、お昼寝をされたり、それぞれの時間を過ごされている。夜間は、着衣や室温に配慮し、安眠できる様に支援している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で確実に情報伝達を行い、服薬変更があった際は記録に残し、申し送っている。内服一覧表を用意している。又、臨時薬の処方があった際はカレンダーに記載し、確認している。薬の事典にて調べたりする。下膳時に内服確認を再度行い、服用確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせて掃除、洗濯物量み、メニュー書き、配膳、調理の下準備、包布交換準備等の役割（手伝い）をもって頂くように支援している。又、体操等の参加も強制はせず、声掛けを行い、無理に参加を促さない様になっている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて、散歩に出掛けたりしている。又、ゴミ拾い等を散歩時に行い、地域との交流を図っている。	利用者の体調や天候に配慮しながら、希望に副って散歩や買い物等の外出支援を行っている。また、家族等とも相談しながら、秋桜等、季節の花見やドライブに出かけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う事が可能な方には、散髪等の支払い時に、御自分で支払いを行って頂いている。管理については、スタッフにて鍵のかかる場所に保管している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたり、手紙のやり取りをされる方はいないが、電話がかかってきたりした際は、御本人と替わり、話をして頂くように支援している。ご家族へ毎月の請求書と一緒に、近況等を記載した御便りを同封している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いろいろな季節感を感じて頂ける様に季節の花を飾ったり、食事に取り入れるようにしている。又、音楽を流すなど入居者の目線に合わせ家庭的な雰囲気作りを心掛けている。	共用の空間は、籐製のソファ・テーブル・椅子を設置し、壁面の木目が和洋折衷の趣きがある。利用者と職員で共に作成した紐細工暖簾を掛けたり、写真を飾る等、生活感に配慮している。また、季節の花や観葉植樹で季節感を採り入れ、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや食堂で、入居者同士が気軽に話が出る様にテーブル・椅子、ソファを設置し、共有空間を確保していると共に、それぞれが各居室で一人の時間を過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、御本人が今まで使用されてきた物等の持込をご家族に依頼し、出来るだけ使い慣れた持ち物や好みのもに囲まれて生活出来るように心掛けている。TV、写真、タンス、小物などの持ち込みがみられている。	テレビ、整理箱、椅子、ソファ、カレンダー、縫いぐるみ、家族写真等、利用者の馴染みのものを持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の構造上難しい部分もあるが、出来る限り御本人に行ってもらえるように、付き添い、声掛け、見守り、一部介助など、一人ひとりに合わせた支援を行っている。洗面台やトイレは低めで、居室入り口には滑り止めをし、ベッドの高さも調節を行い、安全且つ自立した生活が送れるように配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない